

障がい者施設の移動商店街(移動販売)による買物支援 ～社会福祉法人虹の会の取り組み～

主任研究員 濱田 健司

目次

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. はじめに | 4. ぎょうれつ本舗 |
| 2. 法人の概要 | 5. 今後の取り組み |
| 3. 就労系障害福祉サービスの概要 | 6. 農福連携から農福商工連携へ |

1. はじめに

本稿では障がい者に生活の場および就労訓練の場を提供する社会福祉法人虹の会(以下、法人とする)が、買物支援を行う取り組みについて紹介する。それは少子高齢化により過疎化がすすみ、公共交通機関のない、買物する商店もない、そして冬場には雪で外出が困難となる農村地域を中心に実施する取り組みである。

障がい者はこれまで税金の分配により、生活支援や就労支援にかかる行政サービスを受ける側として存在してきた。しかし、当該法人においては、障がい者が職員と軽自動車で農村地域を定期的に引き売りに回することで、地域の高齢者等への買物支援を行っている。引き売りにあたっては軽自動車が行列を組んで多様な商品を販売する。それは新しい移動販売の形態、いわば「移動商店街」である。

2. 法人の概要

法人は琵琶湖西部の滋賀県高島市にあり、平成8年に社会福祉法人虹の会として設立された。現在9つの事業所を開設し、就労支援に関する事業として就労継続支援B型事業¹(以下、B型)と就労移行支援事業を行っている(表1)。生活支援にかかる事業として生活介護・共同生活援助・居宅介護・重度訪問介護・行動援護・地域活動支援センター・移動支援・日中一時支援・地域相談支援・計画相談支援などを行っている。

なお、高島市より委託を受け、移動販売「ぎょうれつ本舗」に関する「支え合いの社会づくりのための移動販売事業」(詳細は後述)なども実施している。

3. 就労系障害福祉サービスの概要

事業所の「アイリス」はB型、「大地」はB型および生活介護、「ドリーム」はそれらに加え就労移行支援事業を行っている。

1 障害者総合支援法に基づく雇用契約を結ばない就労系の障害福祉サービス事業。「通常の事業所に雇用されることが困難な障害者のうち、通常の事業所に雇用されていた障害者であって、その年齢、心身の状態その他の事情により、引き続き当該事業所に雇用されることが困難となった者、就労移行支援によっても通常の事業所に雇用されるに至らなかった者、その他の通常の事業所に雇用されることが困難な者につき、生産活動その他の活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識および能力の向上のために必要な訓練、その他の必要な支援」を行うもの(厚生労働省のHPより引用)。

表1 社会福祉法人虹の会 概要

| 事業所名 | 事業名 | 定員(名) | 登録者数(名) | 職員数(名) |
|-------------------------|---------------------------|-------|---------|--------|
| アイリス | 就労継続支援B型 | 40 | 49 | 12 |
| ドリーム・あんです | 就労継続支援B型 | 26 | 29 | 13 |
| | 就労移行支援 | 6 | 6 | |
| ドリーム・だんだん | 生活介護 | 28 | 36 | 8 |
| 障害福祉施設大地 | 就労継続支援B型 | 10 | 13 | 8 |
| | 生活介護 | 10 | 11 | |
| ハーモニー | 生活介護 | 20 | 24 | 13 |
| わになろう | 居宅介護、重度訪問介護、 行動援護、同行援護 | / | 125 | 12 |
| | 移動支援 | | 67 | |
| | 地域活動支援センター | 30 | 61 | |
| | 日中一時支援 | 10 | 12 | |
| ひまわり生活の家(8か所) | 共同生活援助 | 42 | 32 | 20 |
| 高島市障がい者相談支援センター コンパス | 地域相談支援 | / | / | 10 |
| | 計画相談支援 | | | |
| 相談支援センター虹 | 計画相談支援 | / | / | 2 |

「アイリス」ではB型として、缶・廃油の回収、手織り製品の製造、惣菜製造、畑作業、公園等のトイレや休憩所の清掃（行政受託）、企業からの下請け作業、そしてぎょうれつ本舗などに取り組んでいる。月額平均工賃は約2万円である。

「ドリーム」ではB型として、パン・菓子の製造、それにかかるラッピング、販売、そしてドリーム食堂では地域団体の要望に応じて適宜カフェを開設している。また、就労移行支援事業として、職場実習、社会見学、研修会の開催などに取り組んでいる。平均工賃は約3.3万円である。

「大地」ではB型として、バーク（木のチップ）・鶏糞・米ぬかを発酵させ、もみ殻・発酵落葉・燻炭・山砂を配合した土づくり、苗作り、花壇管理、地元業者の扇子製造時に生じる竹クズを利用した竹紙作り、アルミ缶の

リサイクル、ビニール圧着作業などに取り組んでいる。平均工賃は1万円である。

4. ぎょうれつ本舗

(1) 取り組み内容

1) 経緯

この取り組みは平成23年9月より、滋賀県社会就労事業振興センター²（以下、センターとする）の指導を受けて始まった。発案者はセンターの細川隆司氏（元量販店職員）で、量販店の事業モデルとなっているショッピングモールの考案者である。近年は障がい者の就労支援にかかるさまざまな事業支援に取り組んでいる。高齢者等の買物支援に対する課題と障がい者の職域開拓・工賃向上、障がい者への理解促進という課題をマッチングさせ、さらにショッピングモールのなさまざまな店が並ぶ移動型

2 滋賀県において福祉的就労に取り組む就労継続支援事業所、就労移行支援事業所等の工賃は低い状況にあった（他県よりは高いが平成20年当時平均17,000円）。同センターは個々の事業所が、作業の請負、自主商品の開発や販路の拡大、職員の研修等を単独で行うには限界があるため、事業所間のネットワーク化を進めると共に、受注や販路の拡大、職員の研修、相談等の事業を行い、各事業所等の活性化をはかるため、障がい者の自立に寄与することを目的として、平成20年に設立された組織。会費収入の他、主として県・市町などの行政受託により運営している。

「ぎょうれつ号」



移動の様子



の新しいタイプのモデルを発案した、それがぎょうれつ本舗である。

前述の通り、法人の就労支援にかかるB型事業を行う「アイリス」「ドリーム」「大地」事業所ではさまざまな分野の作業を行ってきたが、かつては製造するパンや菓子類などを近隣のみで販売していた。そこで遠方の顧客を増やすため、県内の他の障がい者福祉施設とともに移動販売の勉強会を開き、事業化をはかった。

この取り組みに対して、平成24年度より高島市は高齢者の買物を支え、コミュニティづくりのために法人との協働提案事業と位置づけ、「支え合いの社会づくりのための移動販売事業」として年間120万円の補助金を出している。

2) 取り組み内容

ぎょうれつ本舗は、その名前の通り、移動販売車が行列をなして、集落を回るといふものである。2～5台で移動する。それぞれの販売車では異なる商品を扱い、さまざまな商品、そしてサービスを提供している。

販売に当たっては、法人だけが販売するのではなく、他の社会福祉法人やNPOや就労支援に関わる企業などと一緒に販売している。

参加する団体によって、販売する商品が異なっている。事務局はB型事業所アイリス

が行い（当初はドリームが担当）、他団体と協力して商品を組み合わせ、販売している。

取り組み当初は各団体の製造した自主商品を中心に販売していたが、高齢者等よりさまざまな要望を受け、仕入れも行い、品目数を増やしている。商品は野菜・果物・菓子類、弁当・惣菜、そして雑貨や花などである。このほか、要望により当初は掃除、不用品の引き取り、洋服の仕立て直しなども行った。平成25年には夏の暑さに対応し、かつより多様な商品販売を実現するために、冷蔵および冷凍設備を搭載した車両を導入した（民間助成金を活用）。

現在、ぎょうれつ本舗のために法人では、アイリスは惣菜・弁当を製造し、かつ保冷車車両、冷蔵・冷凍車両、常温車両の3台を所有し、ドリームはパン・菓子類を製造している（表2）。

ぎょうれつ本舗は原則、職員1名に障がい者1名のユニットで、職員は運転・販売・接客を行い、障がい者はマイクでのアナウンス・販売・接客を行う。

また職員・障がい者ともに顔馴染みとなるよう同じ者が行くようにしているが、ニーズを把握するために、あえて他の職員や食品製造の職員が交替して行くこともある。

アイリスの1か月の売上は7～9万円、ドリームは20～30万円となっている。客単価は年々上がりつつある。

3) 参加団体とルート等

ぎょうれつ本舗は、センターから運営面のアドバイスなどの支援を受けつつ、さまざまな団体と連携して実施されている(表3)。

これまで大津市の障がい者福祉施設の瑞穂(社会福祉法人 美輪湖の家大津 障害福祉サービス事業所)と協力し、高島市および大津市相互での協力販売を行ってきたが、平成25年度より大津市では瑞穂が運営

し、高島市では法人が運営している。

だが平成26年度から、瑞穂・がんばカンパニー(社会福祉法人 共生シンフォニー 障害福祉サービス事業所)の担当職員が異動となったため、大津市内の販売はしばらく休止することになっている。

販売ルートは始めた頃は2ルートであったものが現在は5ルートになり、販売か所は3か所から22か所にまでなっている。

販売するだけでなく、販売スタッフが高齢単身世帯や子育てをする主婦等の話し相手や相談相手にもなっている。また巡回安否確認、井戸端会議の場づくりなど、コミ

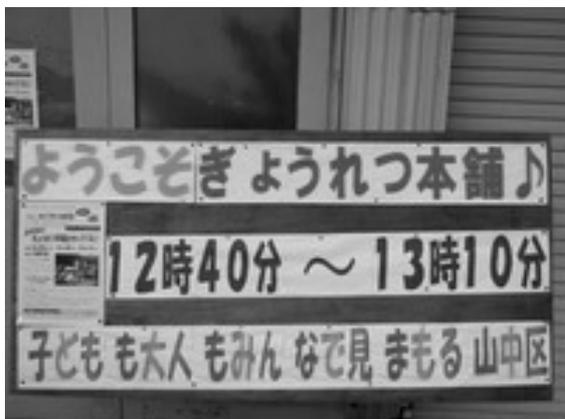
表2 事業所ごとの主な販売品目

| 事業所名 | 主な販売品目 | 参加する販売ルートコース |
|----------|---------------------|--------------|
| アイリス | 惣菜、弁当、野菜、駄菓子、豆腐、調味料 | 全て |
| ドリーム | パン・菓子類 | 全て |
| 大地 | 花苗、野菜 | 状況に応じて |
| 瑞穂 | 菓子類、味噌 | 休止 |
| がんばカンパニー | クッキー | |
| 神里 | せんべい、仕入れた野菜、菓子類 | |

表3 「ぎょうれつ本舗」の販売ルートと参加団体

| | 販売ルート、販売か所 | 参加団体 |
|--------------------------|--|---|
| 23年度 <2ルート> (3か所) | 第2・4水曜日：椋木・朽木方面(2か所) 第1・3金曜日：大津・比叡平(1か所) | ドリーム 瑞穂、大きな木、にっこり、甲賀福祉、ほおずき、こだまり縫工房、滋賀の園芸福祉研究会、神里(個人店)、ドラッグユタカ |
| 24年度 <3ルート> (14か所) | 第1・3金曜日：椋木・朽木・高島方面(3か所) 第2・4金曜日：今津・マキノ方面(8か所) 第2・4金曜日：大津方面(3か所) | アイリス、ドリーム、大地 瑞穂、がんばカンパニー、神里(個人店)、コープしが(トライアル) |
| 25年度 <6ルート> (21か所) | 第1・3水曜日：朽木・針畑方面(8か所) 第1・3金曜日：椋木・朽木方面(3か所) 第2・4水曜日：マキノ方面(4か所) 第2・4木曜日：今津方面(3か所) 第2・4金曜日：高島方面(2か所) 第2 金曜日：大津・比叡平(1か所) | [高島方面] アイリス、ドリーム めいどいんマキノ [大津方面] 瑞穂、がんばカンパニー、神里(個人店) |
| 26年度 <5ルート> (22か所) | 第1・3水曜日：マキノ方面(5か所) 第1・3金曜日：椋木・朽木方面(3か所) 第2・4水曜日：朽木・針畑方面(8か所) 第2・4木曜日：今津方面(3か所) 第2・4金曜日：高島方面(3か所) | [高島方面] アイリス、ドリーム、大地 めいどいんマキノ [大津方面] 平成26年度より休止 |

地域住民が作成した看板



販売の様子



コミュニケーションづくりにも取り組んでいる。さらには、法人の近くにある高齢者のための介護保険施設のデイサービスセンターや老人保健施設においてレクリエーション時に、利用者（高齢者）へ販売し、普段買物機会の少ない利用者の貴重な買物とコミュニケーションの場を提供している。

4) 事前準備

この取り組みに当たり、他団体との勉強会に加え、研修会も開催した。その中でスタッフとなる障がい者への接客についての研修を行った。接客五大用語「いらっしゃいませ」「少々お待ちください」「ありがとうございました」「またどうぞお越し下さい」「申し訳ございません」にかかる挨拶の仕方などである。

またロゴマークやオリジナルエコバッグやのぼり旗などを事前に作成した。ぎょうれつ本舗に従事する障がい者・職員等のスタッフ全員が着用する同じデザインのオリジナルシャツも作成した。

5) ニーズに対応した取り組み

ぎょうれつ本舗を開始してから半年ほど経過した平成24年春には、顧客・スタッフ・地域社会に今まで以上に喜んでもらうために、障がい者と職員のための「商い」を学ぶ研修会を開催した。

9月には顧客ニーズに応え、冷凍・冷蔵機能付き移動販売車を購入し、手作り惣菜やアイスクリームの販売を開始した。また「コープしが」が3か月間のトライアルで参加した。

この頃から農村地域と都市地域での利用目的が異なることが認識されるようになった。農村地域は買物と安否確認・雪かき・コミュニケーションなどの行政的なサービス、都市地域は地域住民同士の交流と安心安全な質の良い高級な商品の提供を求めている。そこで、まず高島方面と大津方面にエリアを分け内容を変えて（高齢者向け、母親向け）、ぎょうれつ本舗を開催することにした。

平成25年冬には杖を突いて買物に来る高齢者が雪のために外出できないことから、あらかじめ注文を聞いて、自宅まで商品を運び、その場で選んでもらい購入してもらった。

(2) 取り組みによる効果

1) 地域への影響

平成23年秋、100歳の高齢者が、ぎょうれつ本舗へ行くために、車いすで数年ぶりに外出した。

ぎょうれつ本舗の巡回する地域住民からは、「買物が楽になった」「おしゃべり、楽

しみの機会が増えた」「移動販売があると人が集まりにぎやかになる」「障がい者が頑張っている姿は自分達の励みになる」そして「冬も来てほしい」「昼の弁当が楽しみ」などという声がある。

最初の頃は障がい者に対する偏見があると言われていたが、今では普通に買いに来ている。

つまり、地域にとっては、①新しい楽しみの機会、②新しいコミュニケーションの場、③障がいへの理解、④高齢者等の生きがい、⑤買物の機会、を生み出すことに繋がっている。

2) 障がい者への影響

スタッフとして参加する障がい者の中には接客を通じて、自分を出せるようになった者もいる。

障がい者からは、「自分がつくった商品が売れるのが嬉しい」「待ってくれる人がいる」「家族や職員以外の人と話せるのが楽しい」「ぎょうれつ本舗に行くために、仕事を頑張る」「毎日行きたい」「もっと働きたい、もっと稼ぎたい」「一般の社会で働きたい」「休みの日も地域へ出てみようかな」などという声がある。

したがって、障がい者にとっては、①必要とされていることを知ること、②自分の仕事へ自信を持つこと、③いろいろな人と触れ合う機会となっていること、④就労への意識を持つこと、そして⑤自らの生活習慣を省みること、⑥新たな収入の機会、に繋がっている。

(3) 地域課題に取り組む障がい者福祉施設

この取り組みは、移動販売車一台一台が扱う商品の異なるお店となって行列することによる、いわゆる「移動商店街」である。ここでは商店での物販のほか、それらの供給にか

かる第1次産業・第2次産業、初年度は縫製などのサービスの提供そしてカフェの開設といった第3次産業も行い、そこへ障がい者がさまざまな形で関わっている。

これは6次産業に福祉が加わることで新しい価値を生み出す「農商工連携」の取り組みの一つといえる。

障がい者にとっては、新しい職域開拓の場、多様な職域の確保、工賃向上の場、地域住民との交流の場、生きがい、住民にとっては買物の場、地域住民や外部との交流の場となっている。そして地域の農商工企業等にとっては、新しい担い手の確保、地域住民との繋がる場、新たな販売機会となっている。

これはまさに近江商人の今日型の三方よしの取り組みといえる。「売り手よし、買い手よし、世間よし」である。

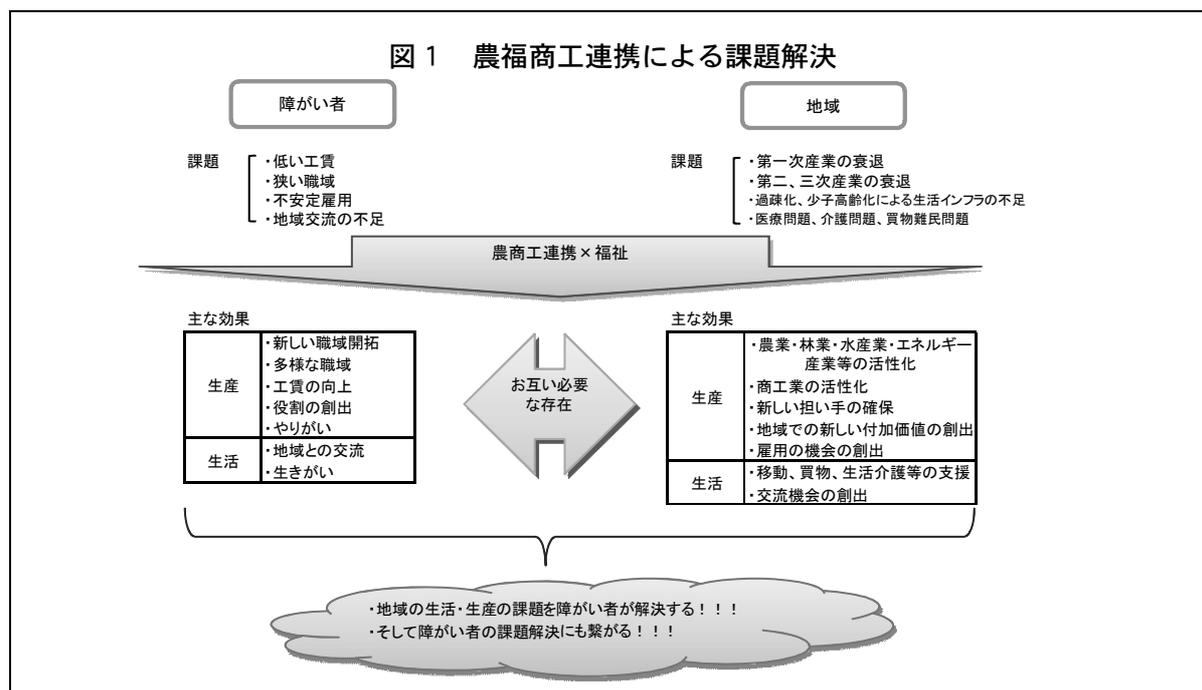
つまり、地域に応じた課題に障がい者福祉施設が取り組むことで、事業所の収益の拡大に繋がり、それが事業の持続的運営に繋がり、地域課題に応じていくことになる。その中で障がい者が働き、収入を得ることができる。

5. 今後の取り組み

平成24年～26年度は高島市から委託事業を受け、本事業費の収入としているが、今後、委託事業がなくなった場合でも自主事業として運営できる体制を整備していくことが課題となっている。

そのためには、この取り組みを通して多様な事業を行うことが重要となる。「アイリス」と「ドリーム」の田村きよ美統括施設長によれば、引き続き地域で生じているさまざまな課題（前述した販売先の高齢者宅の安否確認や雪かきなど）に取り組む、収益をあげることと考えていきたいということである。

また遠くに住む子供世代からの注文を受けられることができるようにしていくことも検討し、



資料：筆者作成

さらには本事業を応援してもらうための寄付なども検討していきたいということである。

6. 農福連携から農福商工連携へ

筆者はこれまで農福連携について、さまざまところで提言してきたが、実はその先には「農福商工連携」がある(図1)。障がい者が取り組む分野は農業だけではない。「農」には農業、林業、水産業、そしてエネルギー産業が含まれる。また、加工等の2次産業、サービス等の3次産業、つまり6次産業が範疇となる。2次産業には食品・工業製品などの加工、3次産業には物流・販売だけでなく教育サービス・医療サービス・福祉サービスなどの提供も含まれる。

つまり農福商工連携における農商工とはいわゆる6次産業であり、農福商工連携はそこに福祉が就労訓練および就労により、役割を果たすために加わるということである。

ぎょうれつ本舗の取り組みは、農村地域での販売、飲食事業といえ、3次産業の取り組

みである。この延長に高齢者の家事手伝いという生活介護もあるとすれば、障がい者が要介護にある高齢者への介護サービスを提供することになる。

彼らはサービスを受ける一方、役割を持ち、収入を得て、税金を払うことができる存在となる可能性は十分にある。それを実現する方法の1つが、さまざまな地域課題に取り組む「農福商工連携」である。

農商工連携に福祉が入ることで、それまで縦割りであったものを繋げ、障がい者が地域の不足する担い手の一つとなり、モノそしてサービスを提供し、福祉の側(障害者、そして障がい者福祉施設)が地域にとってなくてはならない存在となる。農福商工連携は、経済・生活・社会において、多様な「百業」の仕事・役割を生み出す可能性がある。